

復活後第2主日 家庭礼拝の手引き

黙祷

招きの詞

「イエスはトマスに言われた。『わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである。』」（ヨハネ福音書 20:29）

主の祈り

讃美歌 326 「地よ、声高く」

聖書 ヨハネ福音書 (Yohanes)

20:19~31 (新約 210 頁)

説教 「見えないのに信じる・・・

どうやって？」

とりなしの祈り

阪口新牧師

献金 [感謝と献身のしるしとして]

讃美歌 329 「目覚めよ、歌えよ」

黙祷

家庭礼拝の手引き

- 1、 日曜日に（出来れば 10 時 10 分から）各家庭で礼拝をお捧げください。
- 2、 順序は週報に記します。
- 3、 讃美歌は 2 曲提示します。ヒムプレーヤーや CD をお持ちの方はご利用ください。パソコンやスマホをお持ちの方は、youtube にアップされているものの URL と検索方法を記しておきますので、そちらの動画をご覧ください。インターネットの環境がない方は、讃美歌を開いて歌詞に思いを巡らせください。讃美歌は歌詞が最も大切です。（今後対応を考えます）
- 4、 とりなしの祈りは説教原稿の祈りに加えてご自身の祈りの課題をお祈りください。
- 5、 献金は一緒にお渡しする献金袋にお捧げ頂き、この事態が収束した後に、教会へお捧げください。

今週の讃美歌

326 「地よ、声たかく」

<https://www.youtube.com/watch?v=6Zc1BzIROzk>

youtube で「讃美歌 21 地よ、声たかく」で検索。SharonAndDaniel の動画があります。

329 「目覚めよ、歌えよ」

<https://www.youtube.com/watch?v=B5hxdGEJKMI>

youtube で「讃美歌 21 目覚めよ、歌えよ」で検索。HIROSHIMA GRORY CHURCH の聖歌隊の動画があります。

4月19日 多度津の信徒への手紙1章

「見えないのに信じる・・・どうやって？」 ヨハネ福音書 20：19～31

キリスト・イエスの僕、神の福音のために選び出され、召された阪口から、神に愛され、召されて聖なる者となった多度津の人たち一同へ。私たちの父である神と主イエス・キリストからの恵みと平和が、あなたがたにあるように！

私たちは今日、本来であれば復活祭の喜びの中で、共に礼拝堂へ集い「主の復活ハレルヤ」と声を合わせているはずでした。そうした本来の交わりが失われ、皆さんと離れ離れになっていることに、私自身大きなショックを受けています。きっと皆さんもそうでしょう。けれども、涙ながらの決断とはなりましたが、教会員一人一人の安全と健康を第一に考え、この決断へと導いてくださった神さまに、また共に祈り、悩みながら支えてくださった役員お一人お一人の働きに心から感謝しています。

さて、手紙は教会にとって本当になじみ深いものです。聖書の中にもたくさん書簡が残っています。そこで、私は、毎週の説教をこの期間「多度津の信徒への手紙」として書くことにしました。書き出しは必ず聖書の書簡をもじっています。こんな時期です。良かったら楽しみながら聖書を開いて、どの手紙をもじっているか探してみてください！回答はメールやお手紙、電話で受け付けます！正解者には、翌週の祝福を2倍増でプレゼントします！

私の母校、関西学院大学の歴史の教授曰く、2000年の歴史の中で、どんな困難な時代の中でも教会はイースターを祝ってきたそうです。迫害の時、戦争の時、そして疫病の時にもです。古い物では、紀元261年、アレクサンドリア教会の監督ディオニュソスが書いた手紙が残っています。それは、内乱と疫病によって都市が分断されたときに、各地の信徒たちを励ますために書かれたものでした。その時から、アレクサンドリア教会の監督はイースターにちなんで「復活祭書簡」を出すことが恒例になったそうです。私たちもしばらくはこの手紙を通しての付き合いとなっていくわけですが、暗くなるのではなく、教会の本来の形に戻ったと思って、楽しんでみることにします。

さあ、今週はヨハネ福音書からメッセージが与えられています。ヨハネ福音書によると「わたしは主を見ました」最初にそう言ったのはマグダラのマリアただ一人でした。「きっと夢でも見たんだろう」「かわいそうに、イエス様を失ったショックがまだ抜けないんだろうね」最初は哀れみ、疑っていた弟子たちも、続々とイエス様に出会い始めます。ある人たちは、家に閉じこもってカギをかけていたのに「平和があるように」と突然イエス様が現れます。ある人たちは、エマオ

への旅の途中でイエス様から突然語りかけられます。そしてある人たちは故郷に帰って漁をしていたところ、なんと朝ごはんの用意をして待っていてくれたのです！復活のイエス様との出会いは色々です。それなのに、1人まだイエス様に会うことが出来ずにふてくされる人物がいました。トマスです。周囲の弟子たちがどんどん出会っていく中で1人取り残される焦燥感・・・「なぜ俺だけ会えないんだろう。」不安・・・「みんなが俺をからかっているのか？」悲しみ・・・「もしかしたら、俺はイエス様に愛されていなかったんじゃないだろうか」遂にはこんなことを言い始めます。「**20:25 あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をそのわき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない。**」こんなことを口走ってしまったばかりに、トマスはその後2000年間も疑り深い、不信仰な弟子の代表だとされてしまいました。よく皆さんもご存じの讃美歌だと思います。『讃美歌 21』197番3節「ああ主のひとみ、まなざしよ。うたがいまどうトマスにも、み傷示して『信ぜよ』と、招くは誰ぞ、主ならずや」

私は少しトマスに同情します。私たちはどうやって相手のことを信じるのでしょうか？もちろん出会うことによってです。相手と実際に出会い、語り合うことによってです。この数日間、教会の休止について、役員の皆さんと電話や書面だけのやり取りで、意見を聴いたり、調整したりすることに追われました。信頼関係のある人たちとですら、普段の倍以上の時間と労力がかかりました。普段どれほど、相手の表情や声色、しぐさなど見える部分にコミュニケーションを頼っていたか、ということを感じ知らされました。出会えない、顔も見えない、声も聞こえない、そんな相手のことをどうやって信頼できるのでしょうか？だからトマスの叫びは私たちの叫びであるようにも思います。「**20:25 あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をそのわき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない。**」実際に会ってみないと信じることなんてできるはずないだろう！？トマスの主張は至極真つ当なものであるように私には思われるのです。けれども、イエス様はそんなトマスに言われます。「**20:27 あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、わたしのわき腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。**」つまり、私たちは、私たち自身のコミュニケーションの限界を超えて、イエス様と出会うように招かれているのです。「**見ないのに信じる人は幸いです！**」

この物語はヨハネの教会が、イエスと直接会ったことのない世代のために残したものだともいわれています。「見たこともないのに、どうやって信じれば良いのか？」イエスや弟子たちに直接出会ったことのない第2、第3世代のクリス

チャンたちは皆そういった悩みを抱えていたのです。ですから、主イエスの呼びかけは私たちに対するものです。「見ないのに信じる人は幸いである。」私たちはこのことをとても難しいことのように思います。けれども、よく考えてみてください。これは私たち自身のことでもあるのです。おそらく私たちの中に、イエスさまと直接会ったことがある人はいないはずですが、2000年前の人物なのですから。けれども、私たちはイエスを信じています。聖書に現されたこの方を神の子救い主だと信じているはずですが、一体どうやってでしょうか？うまく説明はできません。ある人たちは、それは「聖霊」の働きだと言います。そうかもしれませんが、私も確かに自分自身の信仰には自分の意思や思いをはるかに超えたものが働いているように感じます。復活のイエスも弟子たちに息を吹きかけて言われます。「22 節 聖霊を受けなさい！」ですから、イエス様が言われる「見ないのに信じる幸いな者」とは私たち一人一人のことでもあるのです！

私たちは今、コロナウイルスと言う見えない脅威によって分断されています。普通だったら祝福され、喜ばれるはずである「出会う」ことが出来ないのです。このことを通して私も改めて考えさせられました。私は皆さんと「会う」ことにどれほど救われていたことでしょうか・・・

けれども、イエスは言われます。「見ないのに信じる人は幸いである」私たちは直接イエス様を見たことがないですが、やはり信じています。この方こそ本当の救い主であり、私たちは確かにこの方に愛されていると。「見ないのに信じる幸いな者」とは2000年の時を超えてイエスを信じ、救い主だと告白する私たち一人一人のことです。幸いな者とはあなたのことなのです！だから、私も皆さんのことを見ないで（会えなくとも）信じたいと思います。きっと今、会えなくとも私たちは繋がっている。イエス・キリストを通して繋がっている。昨年度の年間標語聖句です。「あなたがたは皆、信仰により、キリスト・イエスに結ばれて神の子なのです。（ガラテヤ書3：26）

今回、教会を休止する連絡を各方面へしているときに、何人もの方がかけてくださった言葉です。「コロナが収まったら、また必ず会いましょう！」なかなか先の見通しも立たない中で本当に励まされました。「あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはずですが、神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます。（I コリント 10:13）」愛する皆さんとならば、きっとこの危機を一緒に乗り越えていけると信じています。皆さんの上に神さまの祝福が離れることがありませんように！

主イエス・キリストの恵み・神の愛、聖霊の交わりがあなたと共にありますように！アーメン

とりなしの祈り

愛する天の神さま、私たちは不安と戸惑いの中で、あなたの復活の主日を迎えています。私たちは共に集まることが出来ない悲しみの中でも、あなたをほめたたえ、ハレルヤと賛美します。どうか、私たちがささげる祈りを聞き届けてください。

神さま、今世界中の人たちがコロナウイルス感染症の拡大による不安を抱えています。病気に犯されている人が癒され、回復されますように。天に召された魂があなたによって受け入れられますように。治療に当たっている医療スタッフの働きが守られますように。この困難の中で仕事が減り、不安の中にある方が、また健康に不安を覚えながらもどうしても働きに出なければならない方々が守られますように。一刻も早く収束の時が来ますように。

神さま、私たちに希望を与えてください。実際に会うことが出来なくとも、隣人と共に生き、愛し合う方法が見つけれられますように。特に一人暮らしの方や、家族と離れている方々が孤立することがないように、孤立させることがないようにしてください。あなたは「見ないで信じる者は幸いである」と語ってくださいます。どうか私たちが会わずとも信頼し合える幸いな者へと変えてください。

神さま、私たちは私たちの家族・友人・大切な人たちの健康が心配です。特に〇〇さん（ご自身が思い浮かべる方を何人でも挙げてください）を守ってくださいように。

神さま、祈ります。（自由に祈ってください）

神さま、今日、離れていても祈りを共にする多度津教会の一人一人をあなたが顧みてください。その歩みに大いなる祝福を注いでください。それぞれが、それぞれに与えられた場所で、あなたを愛し、隣人を愛し、あなたに仕え、隣人に仕える歩みが出来ますように。救い主イエス・キリストの御名によって。アーメン